

平成27年9月15日

平成27年度 学校関係者評価報告書

学校法人高村育英会
国際観光専門学校熱海校
学校関係者評価委員会

平成27年度 学校関係者評価委員

(関係企業等)

植松 司 氏 株式会社ホテルニューアカオ 取締役人事部長
井堀譲治 氏 学校法人加藤学園 加藤学園高等学校総合学部長

(卒業生関係)

矢野 健 氏 国際観光株式会社 営業部
北島鐵修 氏 卒業生保護者

以上4名

(同席の本学職員)

板垣典明 校長 自己点検・自己評価実施責任者
福田 淳 広報課長
眞田真紀 教務課長
平澤尚紀 就職課長

1 教育理念・目標

○現状と問題点

- ・教育目標、育成人材については就業規則並びに学校案内書に明示し、その周知を図っている。
- ・教育目標を達成させるための一つの制度として、自力進学制度「ホテル委託奨学生制度」がある。それを利用して勉学に励む学生が全体の72%に達している。
- ・教職員と学生の関係性について、節度を保ちながら適切な距離感を保ちコミュニケーションを図っている。
- ・我校の教育内容の一層の充実を期するため、新たな校地校舎を取得しその上で全体のスリム化を検討していきたい。
- ・「自己点検・自己評価」「学校関係者評価」報告書を公表することで、一層の周知ができているものと評価している。
- ・「基本的生活習慣の確立」「人としての素養の充実」を中心に生徒と接することで本校の目指す人材育成については成果が上がってきている。

○改善のための方策

- ・サービス業に従事する人材としての「心構え」「立ち振る舞い」「服装」等を学生に指導する教職員が、日々の学校生活の中で襟を正すことが重要であることを今一度再確認すること。

●学校関係者による評価

- ・サービス業界は、従業員採用・雇用問題で大変苦勞している。優秀な人材を育成するための創意工夫をお願いしたい。

2 学校運営

○現状と問題点

- ・運営方針、事業計画は年度末の運営会議、理事会、評議員会で議決されたものを翌年度の方針・計画として定めている。
- ・学校法人として3期10年目に突入し、その機能は効率よく機能している。
- ・人事、給与、教務、財務、業界、地域へのコンプライアンスは整備されている。
- ・ホームページ上にて「自己点検・自己評価」「学校関係者評価」「財務関係」報告書を公開している。
- ・パッケージシステムではないが、事務処理関係においてネットワークで結び通常の業務には支障はない。

●学校関係者による評価

- ・それぞれの立場で学校運営を真剣に考えることが必要である。
- ・教員がプロ意識を高めていくことが大切である。
- ・平成25年から平成30年の県東部地区管内の生徒減少期に向けた経営戦略を数値を表して立てることが重要である。
- ・経営改革を断行する場合は、摩擦が生じるが断行すべきは勇気を持って行うべし。

3 教育活動

○現状と問題点

- ・教務課を中心に素案を作成し、教育課程編成委員会に於いて意見を頂いた内容を基に教育課程を策定することになっている。
- ・講師、学生の意見も取り入れながら学ぶべき方向性を決定している。
- ・資格取得対策関係授業と職業人スキルアップ関係授業の両面をバランス良く組み合わせている。
- ・教育課程編成委員会を編成し、関連分野において活躍している委員の力を借りてカリキュラム編成を行っている。
- ・実践的な職業教育については、ホテル委託奨学生制度及び1年生の10月より実施のインターンシップ制度により体系的なものになっている。
- ・学則に則り実施している。
- ・学校関係者評価委員会において、学校教育活動全般に対しての評価、意見を頂いている。
- ・明確かつ厳格に行っている。
- ・「卒業までに最低一つの資格を！」を合言葉に、入学当初にまず「フードアナリ

スト4級」資格を取得させている。

- ・常勤、非常勤ともに目標必達を叶えることのできる教員を確保している。
- ・教員の専門性、専門知識レベルについては高いレベルを保っている。
- ・教員のより一層の能力アップを目的とした業界と連携した研修の充実が急務である。

○改善のための方策

- ・教員の資質の向上については、外部講師を招いての校内研修の機会を平成26年度に引き続き実施していく。

●学校関係者による評価

- ・「保護者の思い」「学生の思い」「学校の思い」それぞれの立場を考慮して意見を出し合う機関が、「学校関係者評価委員会」である。その意味を良く理解すること。

4 学修成果

○現状と課題

- ・平成26年度卒業生の就職率は、100%で平成25年度卒業生の96.6%を超えた。
- ・卒業までに資格取得数ゼロの学生が若干名あったことが問題点として挙げられる。
- ・平成26年度は前年度比減となり学生指導の取り組みの成果が現れてきている。
- ・観光分野を中心に、業界関係者より概ね良好の評価を頂いている。
- ・定期的に企業訪問を実施し、卒業生の活躍状況を把握しながら在校生の就職活動が適切に進行するように活動している。

○改善のための方策

- ・職業人意識の高揚と併せて、社会人としてのルール・マナーを厳守できる人材育成をする。
- ・入学後即、資格取得できる講座を開設して資格取得への意識高揚を図っている。平成26年度より「フードアナリスト4級取得講座」を1年生に対して実施している。

●学校関係者による評価

- ・携帯電話による様々な学習を阻害する問題発生を未然に防ぐ手段を講じること。
- ・携帯電話モラル教育など。

5 学生生活支援

○現状と課題

- ・週1での授業「就職ガイド」を中心に全体指導を行い、放課後等には個別面談を実施し支援体制を整えている。
- ・日常的な問題は、クラス担任が中心に対応している。その上で全体への報告相談を行い、教職員共通理解のもとで問題解決を模索している。
- ・委託奨学生制度・日本学生支援機構・オリエンテーション等の学校独自の支援制度を導入している。
- ・全学生4月の健康診断を実施している。
- ・インターンシップ制度、空港見学、ホテル見学、企業説明会等に各学年ごとに参加している。
- ・委託奨学生については、各社社員寮を提供している。
- ・定期的な出席状況報告、定期試験結果報告等を送付している。その他、必要に応じて相談、報告を行っている。
- ・同窓会などできる限り支援しているとともに、再就職支援など「卒業後10年」を目途に支援体制を整えている。
- ・社会人再教育希望者への適切な受け入れ態勢を構築する必要がある。
- ・毎年観光系の学科を開設する高校生はもとより、近隣の高校生を本校に受け入れ見学及び特別授業を実施している。

○改善のための方策

- ・本校に比較的多い悩み相談について、専門知識を持つカウンセラー配置が遅れている。
- ・教室に余裕があれば、社会人再教育プログラムを積極的に構築する。

●学校関係者による評価

- ・中退者を無くすための方策としては、学生のメンタル面でのケアを専門家に託すことも方法である。
- ・委託奨学生の入学前研修については、良い結果を得るための「時期」「期間」の変更はあり得ることだ。
- ・委託奨学生の入学前研修については、巡回指導等の回数を増加させその期間密接につき合うこと。
- ・高校生活と熱海での研修生活とのギャップが大きすぎるのではないか。滑らかに環境変化ができるように配慮することが大切である。
- ・高校を卒業後の一息つく時間は必要である。

6 教育環境

○現状と課題

- ・十分であるとは言えないが、最低限度の設備は整備されている。
- ・首都圏を中心とした空港、旅行代理店、ホテルブライダル関係施設でのインターンシップへの参加。
- ・防災訓練の実施と飲料水、非常食、簡易防寒防水ブランケットの準備をしている。

●学校関係者による評価

- ・特になし

7 学生の受け入れ

○現状と問題点

- ・一日体験入学の開催（14回）及び会場、校内ガイダンスへの参加、高校訪問等精力的かつ適切に実施している。特に体験入学については、毎年、毎回、内容に変化を加えながら参加者、リピーター数の増大を図っている。
- ・在校生の資格所得状況、卒業生の就職実績等正確に伝えている。
- ・高等学校推薦、一般入試（作文試験、面接試験）を実施している。
- ・同分野の他の専門学校と比較しても低額にて充実した教育内容になっている。

●学校関係者による評価

- ・国の施策（インバウンドビジネス）や円安の影響で海外からのお客が多い。その流れを利用してPR活動を工夫する必要がある。
- ・熱海の観光が再認識されている中このタイミングで、マスコミを中心とした校外勢力を利用して学校のPR活動に力を入れることも重要である。
- ・熱海全体では、若い戦力を獲得するため大学生等に対して「模擬宿泊」「模擬職業体験」などのイベントを展開中である。本校の一日体験入学の内容にも一層の創意工夫をすべきである。
- ・沼津2校（競合校）に「高校生の目」は向いている。対沼津2校戦略を立てること。
- ・平成25年から平成30年の県東部地区管内の生徒減少期に向けた経営戦略を

8 財務

○現状と問題点

- ・中長期的な事業計画内容から見て、本学校法人の財務基盤はほぼ適切に安定している。
- ・評議委員会、理事会において議決されたものであって、本学校法人としては適切なものとなっている。
- ・2名の監事によって、毎年度適切に行われている。
- ・ホームページ上にて「自己点検自己評価」「学校関係者評価」「財務関係」報告書を公開している。

●学校関係者による評価

- ・特になし

9 法令等の遵守

○現状と問題点

- ・定員、教員資格等の専修学校設置基準については、守るべき項目は遵守できている。
- ・個人情報に関するデータの校外持ち出し厳禁、PCのセキュリティーに関しても問題なく対応している。
- ・年度末に個人の点検評価、各課の点検評価を纏め検証、改善を実施している。
- ・ホームページ上にて「自己点検自己評価」「学校関係者評価」「財務関係」報告書を公開している。

●学校関係者による評価

- ・特になし

10 社会貢献・地域貢献

○現状と問題点

- ・熱海市役所、市内の他の教育施設との連携の中で学校施設を提供している。
- ・本校の学生多くが自力進学制度を利用して研修を実施しているために、ボランティア活動を実施する時間的な余裕がないのが現状である。
- ・年2回の学校周辺の清掃活動に留まっている。

- ・市内に活動拠点を置く各種団体からの要請があるときは、学校施設を提供して各種の訓練等を実施している。

○改善のための方策

- ・本校の行事として、地域貢献活動を数回予定する。

●学校関係者による評価

- ・地域に係るイベントを計画して校外に宣伝することが必要である。
- ・学校の教育活動を地域住民に発信できるイベント等を考えるべきではないか。

平成26年9月8日

平成26年度 学校関係者評価報告書

学校法人高村育英会
国際観光専門学校熱海校
学校関係者評価委員会

平成26年度学校関係者評価委員

(関係企業等)

植松 司 氏 株式会社ホテルニューアカオ 取締役人事部長
井堀譲治 氏 学校法人加藤学園 加藤学園高等学校総合学部長

(卒業生関係)

矢野 健 氏 国際観光株式会社 営業部
北島鐵修 氏 卒業生保護者

以上4名

(同席の本学職員)

板垣典明 校長 自己点検・自己評価実施責任者
福田 淳 広報課長
眞田真紀 教務課長
平澤尚紀 就職課長

1 教育理念・目標

○現状と問題点

- ・教育目標、育成人材については就業規則第一条に掲載し、その周知徹底を図っている。
- ・ホテル委託奨学生制度を代表として、ホテル実習並びにインターンシップ制度を導入し職業理解を深めるための取組を実施している。
- ・保護者への周知を図る必要があると考えている。
- ・知識と技術の習得よりも、人としての基本的な素養の伝達を疎かにできないと、痛感している。

○改善のための方策

- ・社会のニーズ、社会の変化に即し未来を見据えた「新設分野へのチャレンジ」を視野に学校運営を行う。
- ・ホームページ上で本校の基本方針を保護者に伝達していく。
- ・朝のあいさつ運動等の毎日の繰り返しの中で、自然と社会人としての基本的能力を身に付けさせていく。

●学校関係者による評価

- ・挨拶がよくでき、素直さに満ち溢れた人材育成を目指して欲しい。
- ・ホテル委託奨学生をやり遂げたときの財産の大きさを感じてもらえるようにして欲しい。
- ・学校の存在を熱海市内に今一度、周知徹底を図ることが必要ではないか。

2 学校運営

○現状と問題点

- ・運営方針、事業計画は年度末の理事会・評議員会で決議されたものを翌年度の方針として定めている。
- ・学校法人高村育英会として3期9年目に入り、その機能は効率よくなっている。
- ・人事、給与、教務、財務、業界、地域へのコンプライアンスは整備されている。
- ・教育活動等の情報公開は最善であるとは言えない。

○改善のための方策

- ・本校の教育内容等の情報をホームページ上にアップし、公開する準備を進める。

●学校関係者による評価

- ・学生アンケート、保護者アンケートを実施しその結果を纏め、内容をフィードバックすることで良好な学校運営に役立てることが重要である。
- ・学校運営で見直すべき事柄を、「何を」「いつまでに」「どのレベルまで」を明確に

目標を立てて実施することが重要である。

3 教育活動

○現状と問題点

- ・教務課を中心に、広報課・就職課・講師からの意見を取り入れ教育課程表を策定している。
- ・資格取得と職業人スキルの両面を考慮し、教育活動を実践している。
- ・教育課程編成委員会を編成し、関連分野の企業等の力を借りてカリキュラム編成を実施していく。
- ・「卒業までに最低1つの資格取得」を合言葉に教育活動を行っている。
- ・教員の能力アップを目的とした業界と連携した研修が不足している。

○改善のための方策

- ・教育課程編成委員会を編成し、多くの視点から教育課程編成を急ぐこと。
- ・職業実践専門課程承認を見据え、今年度中に関連分野の企業等より教育課程編成委員の就任を依頼し連携強化を図っていくこと。
- ・学校関係者評価委員会を編成し、学校運営の適切な評価・提言をいただくことが必要。

●学校関係者による評価

- ・最近の新入社員の傾向は、特に新たな環境に適応する能力が著しく低い。企業側も社員研修に時間を割く余裕がないので、在学中に出来る限り強い精神力を身に付けさせて貰いたい。
- ・社会人の離職率と学生の退学率の高さは、新たな環境への適応力の低さが関係していると思われるので、そのあたりを念頭に職業意識の高い学生育成をお願いしたい。
- ・資格取得の為だけの授業ではなく、業界に対するさらなる興味を育成するような授業編成を期待する。

4 学修成果

○現状と課題

- ・平成25年度卒業生の就職率は、96.6%で、平成24年度卒業生の97.0%とほぼ同じであった。
- ・卒業までの資格取得数が、ゼロの学生が若干名あったことが1つの問題点である。
- ・卒業生の社会における評価は概ね良好である。

○改善のための方策

- ・職業人への意識高揚と、社会人としてのルール・マナーを厳守できる人材育成が重要課題である。
- ・入学後即の資格取得の為、平成26年度より「フードアナリスト4級取得講座」1年生に対して実施する。
- ・学生個々が抱える問題点の早期発見早期対処の道筋を確立し、退学者減少に務める。

●学校関係者による評価

- ・中退者を減少させるためには、ネット社会における「いじめ」の実態を含めて多くの学生から情報を集めることも重要である。併せてインターネット等の利用マナーの啓発も重要事項である。

5 学生生活支援

○現状と課題

- ・進路決定に対しては、「就職ガイド」を中心に全体指導を実施し、放課後の時間を利用した個別面談にて支援体制を整えている。
- ・学生相談については、クラス担任が中心に対応しているが、全体への報告が必要な事案については教職員全体で問題を共有し問題解決にあたっている。
- ・ホテル委託奨学生制度・日本学生支援機構・オリエンテーション等の支援制度を整備し紹介している。
- ・企業見学、施設見学、企業説明会、企業実習等各学年で参加している。
- ・保護者へは定期的に出席状況報告、試験結果報告等を郵送している。
- ・同窓会開催等のイベントにおいて支援している。
- ・観光系コースを設置している高等学校の生徒に対し、出前授業や本校における体験授業に参加していただいている。

○改善のための方策

- ・学生の悩み相談について、専門的カウンセラー配置の必要性があると思う。
- ・教室の有効利用策として、社会人の再教育の場となるような施策を考える必要があると思う。

●学校関係者による評価

- ・未成年者が親元を離れて学校生活を行う場合、特に保護者の心配事を極力少なくする施策を講ずる必要がある。
- ・親兄弟に相談できない悩み事を教職員がどのように対応できるかが「カギ」である。優秀なカウンセラーを配置することも検討が必要である。
(その場合、カウンセラーと学生だけの話として対応することも時には重要で

ある。)

- ・自分の中に閉じこもり、周囲の人に相談できなくなっている学生が多くなってきている状況を念頭に指導に当たることも重要である。
- ・「face to face」での指導を行い問題の早期発見・早期解決に力を入れること。

6 学生の受け入れ

○現状と問題点

- ・一日体験入学の開催（年14回）及び会場・校内ガイダンスへの参加、高等学校への精力的な訪問を適切に実施している。
- ・本校の教育成果の伝達を資格取得状況・就職状況報告を行うことで正確に伝えている。
- ・入学者選考については、書類選考・面接試験・作文試験等適切に実施している。
- ・学納金については、同分野の他校と比較して低額設定になっている。

（本校調査結果）

●学校関係者による評価

- ・学生募集の力点として、ホテル委託奨学生制度を十分にPRすることが重要である。
- ・ホテル業界は人手不足傾向が続いていることから、就職にも今後特に有利に作用することなども募集の武器としてPRすることも必要である。
- ・地元志向が強い傾向にあるので、地元の高校生募集を今一度見直す必要があるのではないか。